



9 月 号
平成 30 年 9 月 25 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たぐましい荘川っ子
・考える子
・思いやりのある子
・元気な子

ピンチをチャンスに変える姿

校長 水口 悟

水始めて潤れる(みず はじめて かれる 秋分 末候)

田から水を抜き、稲刈りに取りかかるころ。たわわに実った稲穂の、収穫の秋の真っ只中です。(新暦では、およそ十月三日～十月七日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

◇ シーズンⅡ 挑戦の夏

今年度からスタートした「前期後期制」。本校では、荘川の特徴ある四季折々の節目を大切に、春夏秋冬の4シーズン制を展開しています。この7・8・9月は、挑戦Ⅰの3ヶ月と位置付けています。夏休みを含め、お祭りや合同運動会のあるシーズンⅡは、子どもたちにとって様々な挑戦ができ、とても魅力的です。

9月は、その締めくくりの月でした。

◇ ひとり歩きできる子の‘ふるさとを愛する心’



9月初旬より始まった荘川祭。お祭りを通して、地域の方々との交流はとても貴重な機会です。とても楽しい。地域とともにある学校づくりを進める上で、様々なヒントが見え隠れする、わくわくする時間です。どこまで本気でどこまでが冗談なのか分からない、夢物語であればあればほどに、楽しさが増し、いつか成し遂げよう！という思いが高まります。今年も、子どもたちが地域のお祭りを通して、しっかり育まれている姿を拝見することができました。稚児、浦安の舞、太鼓、舞踊、獅子舞・・・、運動会の練習の合間にどのくらい練習をしたのだろう。学校ではなかなか見ることのできない、地域で頑張る姿に触れ心が洗われます。一人で舞台に立ち、緊張した表情の中にも自信あふれる身のこなしに拍手喝采です。仲間の演出が終わると舞台のそでから駆け寄る子どもたちの姿も、実に温かい！前夜祭には無くてはならない風物詩です。地域の中で、温かくも厳しく手厚く声をかけて頂いたおかげで、子どもたちは達成感一杯です。

◇ ひとり歩きできる子の‘ピンチをチャンスに変える力’



いくつかのお祭りも、台風21号の影響により延期が余儀無くされる中、小中合同運動会も例外ではありませんでした。さらに、小学校においては、今季県内初となるインフルエンザの流行が重なり、いつになったら荘川のまち中が楽しみにしている小中合同運動会が開催できるのかという、ピンチにさらされたのです。高熱を出し寝ている子どもたちはどう思っているのだろう。登校しても全員が揃わない学級をどう思っているのだろう。中学校の子どもたちは、どう思っているのだろう。迷いや焦りが繰り返されましたが、判断の基準は「子どもたちにとって、どうか」です。そんな状況の中、渦中にあった当の子どもたちが、自らこのピンチを脱する動きを見せてくれたのです。小学校高学年による中学生に向けた『インフルエンザが治まるまで、もう少し待っててください』という内容のお手紙と間髪入れず返ってきた中学生からの返事。

『この度は、お手紙ありがとうございます。インフルエンザの流行は誰が悪いわけではないので、気にしないでください。私たちも競技や応援ともに完成度を上げる時間ができたとポジティブに受け取っています。運動会当日は、小中合同でがんばりましょう！』

保護者・地域とともに進められている保小中一貫教育の中で、子どもたちは逞しく育っています。前期後半、この二週間から学んだものは大きい。10月から、シーズンⅢ秋(10・11・12月)：挑戦Ⅱのい始まりです。“ひとり歩きのできる子”に向け、温かくも厳しくも手厚く育てていきたいと思えます。